

# 平成31年4月 繁殖技術研修生募集要項

- 対象者：将来、酪農家または和牛繁殖農家の仕事に従事するために牛の人工授精および受精卵移植等の繁殖に関する知識・技能を学ぼうと志す方（高校・大学卒業後で20代まで）で、心身健康で高校卒業以上の学歴を有する者、普通自動車免許を有し、マイカーでの通勤ができること
- 研修期間：平成31年4月1日から  
人工授精師（AI師）コース（若干名）：原則1年間  
受精卵移植師（ET師）コース（若干名）：原則2年間
- 研修場所：全国農業協同組合連合会（JA全農）畜産生産部 ET 研究所
- 研修内容：（場内施設：黒毛和牛約500頭、乳牛未經産牛約1000頭）  
（農家庭先 ET：4000頭以上、農家庭先採卵：1000頭以上）
  - \*実践研修・・発情観察、人工授精・受精卵移植補助業務、牛の健康観察、不妊牛治療の助手等、採卵業務助手、  
精液・受精卵の顕微鏡下での観察・農家庭先での ET や採卵業務助手など繁殖管理台帳等の管理  
試験牛を用いた AI や ET 実習
  - \*座学研修・・上記に関連する基礎知識・最新技術の習得に関する研修（月に最低1回実施）
  - \*資格取得・・本人の希望により人工授精師・受精卵移植師などの資格取得が可能  
資格取得のための講習経費は自己負担、講習参加の出張費用は当方負担
- 研修日課：原則実働7.5時間  
午前 8時30分-12時00分  
午後 13時00分-17時00分  
採卵日等で早出の日（時間外手当付与）もあります。
- 休暇・休日：  
土曜日・日曜日・祝日、年末年始、有給休暇（業務都合により休日出勤もあります。）  
特別休暇（夏季休暇、慶弔休暇他：「臨時・パート就業規則」に準じる）
- 給与体系：  
身分は臨時職員として、月額13万円程度を支給します。  
健康保険、雇用保険、厚生年金、労災保険に加入。  
宿泊施設（アパート等）はこちらで手配します。（住宅料として月1万円程度を徴収します。）食事は各自の自炊となります。
- 選考方法・時期：  
AI師又はET師コースを明記の上、履歴書を添えて下記宛先までご応募下さい。  
応募〆切りは、平成30年8月17日(金)です。  
選考は書類選考・作文・面接等、平成30年9月18日(火)以降を予定しています。

## 【お問い合わせ先】

〒080-1407 北海道河東郡上士幌町字上音更西6線331-11

全国農業協同組合連合会（JA全農）畜産生産部 ET 研究所 管理課

TEL: 01564-2-5811、email: [zz\\_zk\\_etc\\_kamishihoro@zennoh.or.jp](mailto:zz_zk_etc_kamishihoro@zennoh.or.jp)

# 繁殖技術研修生カリキュラム

## 第4期生

平成30年度6月 E T研究所

対 象	目 的	研 修 内 容	時 期	備 考
人工授精師・ 受精卵移植師 コース	日本の畜産の現状を理解する 牛の健康観察・発情発見の重 要性を認識する 人工授精ならびに受精卵の製 造や受精卵移植作業工程を理 解する	オリエンテーション（全農ET研究所(以 下、ET研)の事業・研究紹介)	4月 初 旬	
		日本の畜産・酪農の現状について（講義）	上期	
		採卵・検卵・移植等の準備作業習得	上期	
		採卵・検卵補助等	上期	
		牛の取り扱いと発情発見の実務実習 健康観察管理実習	通年	
人工授精師・ 受精卵移植師 コース	一般的な牛の繁殖技術の基礎 を習得していく	直腸検査による生殖器の触診実習	通年	
		人工授精時の衛生指導と廃用牛を用い た子宮頸管穿通実習	上期	
		人工授精の準備 凍結精液の融解と精子活力検査実習	下期～	
		繁殖管理台帳のパソコン管理実習	下期	
		十勝管内農家の視察と移植・採卵・繁殖 検診補助	通年	
人工授精師・ 受精卵移植師 コース	ET研だからこそ学べる先端技 術をより深く理解し、自分の ものとして習得していく	人工授精師免許の取得（基本的に初年度 取得）	7月（道 内）	
		人工授精実習と実務	免許取 得後	
		検卵および受精卵の凍結補助および受 精卵融解法実習	通年	
		発情同期化法の実習（超音波装置による 卵巢・子宮観察の習得）および不妊牛対 処法	通年	
		人工授精師研究発表会等へ参加し最新 情報の取得と先輩授精師との交流	免許取 得後	
受精卵移植師 コースのみ	受精卵移植技術の習得と生殖 発生学の理解を深めるととも に一般的な受胎率の出せる技 術者に成長していく	受精卵移植師免許の取得（基本的に2年 目取得）	全国各 地、開 催時	2年目～
		受精卵検卵・移植の実習と実務	免許取 得後	
受精卵移植師 コースのみ	高度かつ実践的な受精卵移植 技術者に成長する	発情同期化・人工授精・受精卵移植・検 卵実務およびデータ管理の総まとめ等	通年	2年目～

最低月に1回は、ET研職員から繁殖に関する専門的講義を必ず実施します。